

科目区分	副専攻科目						
科目名	オルガン学II－歴史						
担当教員	長谷川 美保						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	オルガンの歴史を通してヨーロッパ文化を知る						
授業の概要	本授業は、「音楽実技」を履修する学生が、オルガンの成り立ちと発展を知り、より良くオルガンの演奏法を理解し体得するための重要なプロセスとなります。また「音楽実技」を履修していない者でも、オルガンが生まれた背景や社会情勢、各時代の文化をつぶさに知ることで、ヨーロッパ全体の社会史およびヨーロッパ人の表現方法の源泉に触れ、より広い世界を理解することにつながります。						
到達目標	オルガンが遂げてきた、時代ごとや国ごとの発展・変遷を知り、オルガン音楽全体をよく理解できるようになります。同時に、時代によって音楽というものの価値観が異なることを学び、最終的には、一市民として将来文化芸術にどのような関わり方をするべきか、自分の考えを持てるようにします。						
授業計画	<p>第1日： 教室にてオルガン製作の過程をまとめたDVDを鑑賞。ヨーロッパ各地に現存する歴史的オルガンの映像・写真等を見ながらオルガン建造の歴史を学びます。各国のオルガンの違いについても講義します。初日はバロック時代（バツハ）までを学びます。</p> <p>第2日： ロマン派時代以降のオルガンの変遷と音楽の歴史を学びます。20世紀に日本に導入されたオルガンとオルガン音楽の、ヨーロッパとの違いを理解し、現在の日本で起きているオルガンをめぐる様々な課題を考えます。第2日後半はチャペルに移動し、実際にオルガン内部を見学しながら、これまで学んだオルガンの構造と歴史を確認します。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	集中講義までに、生のオルガン演奏（音楽実技やアンサーサービスではなくコンサート）を1回以上聞いておくこと（松蔭のチャペルまたは学外でのコンサートなど、内容は問わない）。						
授業方法	講義とオルガンのデモンストレーション演奏（講師または出席学生による）						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	プリントを渡します。						
参考書	ニューグローヴ音楽事典「オルガン」の項（宗教センター内にあり。閲覧可能）						

科目区分	副専攻科目						
科目名	音楽実技III						
担当教員	伊藤 純子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガン演奏の研究						
授業の概要	音楽実技Ⅰ、Ⅱで培った基礎の上に、さらに高度な演奏技術と表現を習得するために、多角的なアプローチにより、演奏技術の向上を図ります。具体的には、履修者各自との話し合いにより決定される課題曲の演奏を通して、より深い研究を促します。 基本的事項、つまり、楽器とのコミュニケーションの取り方、楽曲への取り組み方、表現の仕方、演奏者と聴衆とではどのように聴こえ方が異なってくるか、などについて、課題曲の演奏を用いて、随時ひとつずつ取り上げ、整理していきます。						
到達目標	オルガンという楽器は、慣れれば慣れるほど奥深い発見があり、一方で、慣れによって知らないうちに付いてしまった癖は、思うような演奏を出来なくさせてしまいます。 楽器との付き合い方や、楽曲への向き合い方など、基本的事項について自ら気づき、それらを習得出来るようになります。またそれらを、その学生独自の方法で深め、学生がよりハイレベルな音楽体験を実現できることを目標とします。 独学では気付けぬ面を、グループレッスンで、他人の演奏を楽譜を見ながら客観的に聴くことにより、新しい発見と学びが導き出されます。 修了後に教会で奏楽をしたり独学でオルガンを学び続ける学生は、そのヒントとなる事柄を修得できます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・一年の方針を協議 2. グループレッスン・身体的準備、力の抜き方 3. グループレッスン・身体的準備、座り方 4. グループレッスン・身体的準備、ペダル 5. グループレッスン・パイプに歌わせる感覚、タッチについて 6. グループレッスン・スローリリース 7. グループレッスン・公開演奏会プログラム選定 8. グループレッスン・聖歌の弾き方 9. グループレッスン・聖歌の弾き方 10. 公開発表会準備・楽譜分析 11. 公開発表会準備・楽譜分析 12. 公開発表会準備・ストップの工夫 13. 公開発表会準備・ストップの工夫 14. 公開発表会準備・リハーサル 15. 公開発表会・講評・夏休みの課題 16. 後期の方針について協議 17. グループレッスン・公開発表会、検定試験、ステューデントコンサートのプログラム選定 18. グループレッスン・丹田の気の入れ方 19. グループレッスン・肩と腕の気の通し方 20. グループレッスン・楽譜分析 21. グループレッスン・楽譜分析 22. グループレッスン・空間に手放してゆだねる弾き方について 23. グループレッスン・響きを聴くこと、空間と一体化することについて 24. 公開発表会準備・聖歌の弾き方 25. 公開発表会準備・聖歌の弾き方 26. 公開発表会準備・ストップの工夫 27. 公開発表会準備・ストップの工夫 28. 公開発表会準備・リハーサル 29. 公開発表会（試験を兼ねる） 30. 公開発表会講評・今後のこと（検定試験、ステューデントコンサート）について 						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自が学内外の楽器で練習、準備をする						
授業方法	実技指導平常点50%、試験30%、出席状況20%						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修の対象者は、音楽実技Ⅰ、Ⅱを受講している者、もしくはそれ相応の演奏技術を有する者。 2. 履修者の人数によっては、隔週でのレッスンになるが、毎週出席すること。 3. 授業時間内は静粛に演奏に耳を傾け、積極的に意見を発信すること。 4. 他人のレッスンは楽譜を見ながら、自分が演奏しているつもりになって聴講すること。 5. 自分ではこれ以上発見がないというところまで練習した上で、臨むこと。 6. 3分の2以上の出席ができない場合は、受講資格を失うので注意すること。 						

教科書	とくになし
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IA						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする。 歌うための体と息の使い方に注目し、初歩的な声楽アンサンブルを学ぶ。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	身体の使い方と息の流れを感じて歌えるようになる。 歌詞の意味を理解し、表現できる。 他の人の声、全体の響きを聞きながら声を合わせてアンサンブルできる。						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その1 ・日本語の合唱曲（2声） その1 ・発声の基礎 立ち方① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その2 ・日本語の合唱曲（2声） その2 ・発声の基礎 立ち方② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その3 ・日本語の合唱曲（2声） その3 ・発声の基礎 腹式呼吸① <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その4 ・日本語の合唱曲（2声） その4 ・発声の基礎 腹式呼吸② <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受難のコラール その5 ・日本語の合唱曲（2声） その5 ・発声の基礎 腹式呼吸③ <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その1 ・ラテン語の合唱曲（3声） その1 ・発声の基礎 重心① <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その2 ・ラテン語の合唱曲（3声） その2 ・発声の基礎 重心② <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その3 ・ラテン語の合唱曲（3声） その3 ・発声の基礎 腹筋と背筋① <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その4 ・ラテン語の合唱曲（3声） その4 ・発声の基礎 腹筋と背筋② <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復活のコラール その5 ・ラテン語の合唱曲（3声） その5 ・発声の基礎 腹筋と背筋③ <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール(Allein Gott) その1 ・ラテン語の合唱曲（3~4声） その1 ・発声の基礎 背中面① 						

授業計画	第12回 ・コーラル(Allein Gott) その2 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その2 ・発声の基礎 背中面② 第13回 ・コーラル(Allein Gott) その3 ・ラテン語の合唱曲(3~4声) その3 ・発声の基礎 体を開く① 第14回 ・コーラル(Allein Gott) その4 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その4 ・発声の基礎 体を開く② 第15回 ・コーラル(Allein Gott) その5 ・ラテン語の合唱曲(3声~4声) その5 ・発声の基礎 体を開く③
授業外における学習(準備学習の内容)	外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習をしておく。 課題曲の反復練習。 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業への積極的な取り組みなど平常点が50%、中間テスト20%、期末テスト30%で評価する。
教科書	その都度楽譜を配布する。
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	教会音楽実習IB						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	チャペルの美しい響きを聞きつつ、様々な宗教的内容の楽曲を美しく歌えるようにする。 歌うための身体と息の使い方に注目し、初歩的な声楽アンサンブルを学ぶ。						
授業の概要	①ルター派のコラール（ドイツ語・斉唱） ②2声~4声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など） ③美しく歌うための技術の習得 ④アンサンブルができる耳を養う 以上の4項目を並行して進めます						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの声を聞きつつ、楽しんで声楽アンサンブルの演奏ができる。 ・ドイツ語、ラテン語などの正しい発音で歌唱できる。 ・良い声は身体とつながっていることの実感を持つことができる。 ・歌詞の意味を的確に表現し演奏することができる。 						
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その1 ・ポリフォニーの合唱曲 その1 ・発声の発展 筋肉の連携① <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その2 ・ポリフォニーの合唱曲 その2 ・発声の発展 筋肉の連携② <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その3 ・ポリフォニーの合唱曲 その3 ・発声の発展 筋肉の連携③ <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その4 ・ポリフォニーの合唱曲 その4 ・発声の発展 横隔膜① <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待降節のコラール その5 ・ポリフォニーの合唱曲 その5 ・発声の発展 横隔膜② <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その1 ・降臨節の合唱曲 その1 ・発声の発展 横隔膜③ <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その2 ・降臨節の合唱曲 その2 ・発声の発展 顔面の響き① <p>第8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その3 ・降臨節の合唱曲 その3 ・発声の発展 顔面の響き② <p>第9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その4 ・待降節の合唱曲 その4 ・発声の発展 顔面の響き③ <p>第10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降臨節のコラール その5 ・降臨節の合唱曲 その5 ・発声の発展 体を響かせる① <p>第11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラール (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その1 ・発声の発展 体を響かせる② 						

授業計画	<p>第12回 ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その2 ・発声の発展 体を響かせる③</p> <p>第13回 ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その3 ・発声の発展 声を離す①</p> <p>第14回 ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その4 ・発声の発展 声を離す②</p> <p>第15回 ・コーラル (Vater unser im Himmelreich) ・ドイツ語の合唱曲 その5 ・発声の発展 声を離す③</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>外国語の楽曲については、歌詞の意味、発音の復習をしておく。 課題曲の反復練習。 日常的に身体の使い方と息に意識を向けること。</p>
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業への積極的な取り組みなど平常点が50%、中間テスト20%、期末テスト30%で評価する。
教科書	その都度楽譜を配布する
参考書	

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国語通訳翻訳演習A						
担当教員	古川 典代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	中国語通訳・翻訳						
授業の概要	通訳に必要な資質、道具、手法の理解。通訳トレーニングメソッドの理解と習得。簡単な通訳や翻訳の演習でスキルを身に付ける。						
到達目標	通訳トレーニングメソッドがわかる。 簡単な通訳や翻訳ができる。						
授業計画	第一回 中国語通訳についての概要、必要ツール紹介 第二回 通訳トレーニングメソッドの紹介、演習 第三回 クイックレスポンス、ラギング 第四回 シャドーイング 第五回 ノートテイキング 第六回 サマリー 第七回 小テスト 第八回 逐次通訳演習① 第九回 逐次通訳演習② 第十回 翻訳演習① 第十一回 翻訳演習② 第十二回 字幕翻訳について 第十三回 同時通訳・ウイスパリングについて 第十四回 期末テスト 第十五回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から中国語のシャワーを浴びるように心がけてください。						
授業方法	講義、演習						
評価基準と評価方法	日常点 50% 小テスト、定期テスト 50% ただし授業中のパフォーマンスを加味します。						
教科書	毎回プリントを用意します。						
参考書	『中国語シャドーイング入門』DHC 古川典代著 ISBN4-88724-391-X						

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国語通訳翻訳演習B						
担当教員	古川 典代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	中国語通訳・翻訳						
授業の概要	通訳に必要な資質、道具、手法の理解。通訳トレーニングメソッドの理解と習得。簡単な通訳や翻訳の演習でスキルを身に付ける。						
到達目標	通訳トレーニングメソッドを活用できる。 日常の通訳や翻訳ができる。 同時通訳について、知っている。						
授業計画	第一回 通訳トレーニングメソッドの効用理解 第二回 クイックレスポンス、リピート 第三回 クイックレスポンス、ラギング 第四回 シャドーイング、スラッシュリーディング 第五回 ノートテイキング、サマリー 第六回 通訳トレーニングメソッド復習 第七回 小テスト 第八回 逐次通訳演習① 第九回 逐次通訳演習② 第十回 翻訳演習① 第十一回 翻訳演習② 第十二回 同時通訳演習① 第十三回 同時通訳演習② 第十四回 期末テスト 第十五回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から中国語のシャワーを浴びるように心がけてください。						
授業方法	講義、演習						
評価基準と評価方法	日常点 50% 小テスト、定期テスト 50% ただし授業中のパフォーマンスを加味します。						
教科書	毎回プリントを用意します。						
参考書	『中国語シャドーイング入門』DHC 古川典代著 ISBN4-88724-391-X						

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国の生活と文化A						
担当教員	趙 暁柏						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人の暮らしや文化を理解する						
授業の概要	中国の生活や文化などを紹介するDVDを鑑賞したのちに、中国人教師から補足説明を聞いたり、履修者からの質疑に応える。						
到達目標	日本と対照しながら、似て非なる文化について理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 中国の生活や文化の概要 第2回 第一課 大学キャンパス 第3回 中国の大学生の様子など 第4回 第二課 南京路歩行者天国 第5回 上海の様子 第6回 第三課 早朝トレーニング 第7回 小テスト 第8回 第四課 豫園 第9回 上海の暮らしと文化紹介 第10回 第五課 国宝ジャイアントパンダ 第11回 パンダの保護状況や四川の暮らし 第12回 第六課 世界遺産 九寨溝 第13回 中国の観光地について 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ、感想発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で提供すること以外にも興味を持って、積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日常点・小テスト 50% 毎回の小レポート（気づきの点・日本との違い・感想）50%						
教科書	DVDで学ぶ中国文化『Chinese Adventure』金星堂 洪傑清著 ISBN978-4-7647-0686-6						
参考書	中国で出版されている『中国常識』DVD 中央放送電視大学音像出版社 など						

科目区分	副専攻科目						
科目名	中国の生活と文化B						
担当教員	趙 暁柏						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人の暮らしや文化を理解する						
授業の概要	中国の生活や文化などを紹介するDVDを鑑賞したのちに、中国人教師から補足説明を聞いたり、履修者からの質疑に応える。						
到達目標	日本と対照しながら、似て非なる文化について理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 中国の生活や文化の概要・前期の復習 第2回 第七課 大学のクラブ活動 第3回 日本と中国の大学生の違いについて 第4回 第八課 故宮博物院 第5回 文物について 第6回 第九課 北京798芸術区 第7回 小テスト 第8回 第十課 秦の始皇帝兵馬俑 第9回 古都西安について 第10回 第十一課 少数民族 第11回 中国の少数民族について 第12回 第十二課 麗江古城 第13回 中国の世界遺産や観光地について 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ、感想発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で提供すること以外にも興味を持って、積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日常点・小テスト 50% 毎回の小レポート（気づきの点・日本との違い・感想）50%						
教科書	DVDで学ぶ中国文化『Chinese Adventure』金星堂 洪傑清著 ISBN978-4-7647-0686-6						
参考書	中国で出版されている『中国常識』DVD 中央放送電視大学音像出版社 など						

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化A						
担当教員	釣 馨						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの国民性とフランス人気質を学ぶ						
授業の概要	在仏経験20年以上のアメリカ人ジャーナリスト、仏在住の日本人女優、パリに詳しい日本人漫画家など、様々なジャンルの著者の視点を通したフランス人の国民性とフランス人気質を紹介する。						
到達目標	フランスの国民性とフランス人気質を理解し、自分なりのフランスの全体像を深める。						
授業計画	第1回 パリ症候群 第2回 フランスのデパートやスーパーでの体験 第3回 自分の非を認めないフランス人 第4回 フランスの家族 第5回 フランスの学校 第6回 フランス語へのこだわり 第7回 人生の楽しみとヴァカンス 第8回 フランスの企業の特徴 第9回 フランスの企業とグローバリゼーション 第10回 フランス人と愛 第11回 フランス人と食 第12回 フランス人からみたアメリカ人 第13回 日本人からみたフランス(じゃんぼーる西) 第14回 日本人からみたフランス(中山美穂) 第15回 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	参考図書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。 ポリー・プラット『フランス人 この奇妙な人たち』 中山美穂『なぜならやさしいまちがあったから』 じゃんぼーる西『かかってこいパリ』						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%						
教科書							
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランスの生活と文化B						
担当教員	釣 馨						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	フランスの歴史と政治						
授業の概要	フランスの社会を、歴史と政治の側面から紹介します。映画や動画など、ビジュアルを交えてわかりやすく授業を進めます。						
到達目標	フランスの歴史と政治の理解						
授業計画	第1回 フランスの概要 第2回 フランスの歴史：近代(1) 第3回 近代(2) 第4回 近代(3) 第5回 近代(4) 第6回 現代(1) 第7回 現代(2) 第8回 現代(3) 第9回 現代(4) 第10回 フランスの政治(1) 第11回 フランスの政治(2) 第12回 フランスの政治(3) 第13回 フランスの政治(4) 第14回 フランスの政治(5) 第15回 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度に応じて、参考図書に関連ページをあらかじめ読んでおくことが望ましい。参考にする本や映画は最初の授業で紹介します。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%						
教科書							
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス映画を通してフランス語を学ぶ						
授業の概要	フランス映画を題材にフランス語の能力を高め、フランス映画の歴史を学ぶ。						
到達目標	映画で使われる易しいフランス語を理解できる。 映画を通してフランス文化を知る。 フランス映画の歴史と特徴を知る。						
授業計画	第1回 「パリ空港の人々」 第2回 「トリコロール」 第3回 「女と男の危機」 第4回 「髪結いの亭主」 第5回 「ピクニック」 第6回 「美女と野獣」 第7回 「肉体の悪魔」 第8回 「二十四時間の情事」 第9回 「太陽がいっぱい」(1) 前半 第10回 「太陽がいっぱい」(2) 後半 第11回 「冬物語」(1) Scène 1 第12回 「冬物語」(2) Scène 2 第13回 「冬物語」(3) Scène 3 第14回 「冬物語」(4) Scène 4 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	フランス映画に限らず、いろいろな国の映画を見る。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、筆記試験50%。						
教科書	開講時に指示する。						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	フランス文化演習B						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス語作文						
授業の概要	基本的なフランス語の文をたくさん作る練習をする。 並行して、フランス語のヒアリングの練習もする。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。						
到達目標	フランス語で書くことに慣れる。						
授業計画	<p>第1回：授業のガイダンス。ヒアリング練習。</p> <p>第2回：名詞の性と冠詞に関わる作文問題。être動詞と形容詞、不定冠詞に関わる作文問題。</p> <p>第3回：avoirと部分冠詞に関わる作文問題。-er動詞と否定文に関わる作文問題。</p> <p>第4回：aller, venirと所有形容詞に関わる作文問題。-ir動詞と疑問形容詞に関わる作文問題。</p> <p>第5回：pouvoir, vouloirと強勢形人称代名詞に関わる作文問題。命令形と指示代名詞に関わる作文問題。</p> <p>第6回：人称代名詞に関わる作文問題。entendre, écouter, voir, regarderに関わる作文問題。</p> <p>第7回：指示形容詞と疑問副詞に関わる作文問題。faireと非人称動詞に関わる作文問題。</p> <p>第8回：中間試験。</p> <p>第9回：比較級と最上級に関わる作文問題。複合過去に関わる作文問題。</p> <p>第10回：代名動詞に関わる作文問題。疑問代名詞と関係代名詞に関わる作文問題。</p> <p>第11回：接続法に関わる作文問題。受動態と半過去に関わる作文問題。</p> <p>第12回：未来形に関わる作文問題。使役動詞、放任動詞に関わる作文問題。</p> <p>第13回：大過去と関係代名詞dont, oùに関わる作文問題。中性代名詞に関わる作文問題。</p> <p>第14回：現在分詞とジェロンディフに関わる作文問題。条件法、間接話法に関わる作文問題。</p> <p>第15回：期末試験。復習 毎回最後の20分間を使ってヒアリングの練習をする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進むところのフランス語文をすべて作っておくこと。</p> <p>授業後学習：前回誤答であったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習の量30%。仏検合格者は最終成績に5点加点する。						
教科書	プリントを配付する。						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIA						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	<p>語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。</p>						
到達目標	フランス語の書きことばに慣れる。フランス語の語彙力が増える。長文読解力を高めること。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。 第2回：1課「エラスムス計画」 第3回：1課の続きとEXERCICE 第4回：2課「ラングゾー」 第5回：2課の続きとEXERCICE 第6回：3課「神童クリスチアン」 第7回：3課の続きとEXERCICE 第8回：中間試験。 第9回：4課「人種差別テスト」 第10回：4課の続きとEXERCICE 第11回：5課「都市農業」 第12回：5課の続きとEXERCICE 第13回：6課「初生鑑別師」 第14回：6課の続きとEXERCICE 第15回：期末試験 授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。 授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には5点程度加点する。						
教科書	「時事フランス語 2014年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社、ISBN978-4-255-35245-9						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチャー・フランセーズIB						
担当教員	木谷 吉克						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	書き言葉のフランス語の読解						
授業の概要	<p>語彙力、読解力、聞き取り能力の養成 時事フランス語の教材を使って、語彙力、読解力の向上を目指す。 同時に、フランスの社会、経済、政治、文化等の知識を深める。 また、聞き取り能力の養成のため、毎回の授業の最後に、ヒアリング教材を用いて聞き取りの練習も行う。 第8回目の授業時に中間試験を行い、15回目に期末試験を行う。</p>						
到達目標	フランス語の書きことばに慣れる。フランス語の語彙力が増える。長文を読み解けるようになる。						
授業計画	<p>第1回：授業の進め方の説明。ヒアリング教材を使っての聞き取り練習。 第2回：7課「オオカミ対ヒツジ」 第3回：7課の続きとEXERCICE 第4回：8課「闘牛と憲法」 第5回：8課の続きとEXERCICE 第6回：9課「フランスのスターバックス」 第7回：9課の続きとEXERCICE 第8回：中間試験。 第9回：10課「ボン・マルシェ」 第10回：10課の続きとEXERCICE 第11回：11課「フリーマーケット」 第12回：11課の続きとEXERCICE 第13回：12課「セーヌ川に浮かぶ住宅」 第14回：12課の続きとEXERCICE 第15回：期末試験 授業の最初に出席カードを配る。それにどこまで予習しているかを書いてもらう。教科書は読んで訳すだけでなく、文法的な説明も問う。したがって、それについてもあらかじめ調べておくこと。毎回最後の20分程度を使って、ヒアリングの練習もする。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業までに次回に進む所を辞書を調べて訳しておくこと。 授業後学習：前回誤ったところを見直し、参考書等で確認しておくこと。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験70%、出席率と毎回の予習30%。それに宿題の成績を加点する。仏検合格者には最終成績に5点加点する。						
教科書	「時事フランス語 2014年度版」ミシェル・サガズ著、加藤晴久編、朝日出版社、ISBN978-4-255-35245-9						
参考書							

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第1課 Mon quartier (1) 第2回 Mon quartier (2) 第3回 Mon quartier (3) 第4回 第2課 Ma ligne (1) 第5回 Ma ligne (2) 第6回 Ma ligne (3) 第7回 第3課 Les cafe de mon quartier (1) 第8回 Les cafe de mon quartier (2) 第9回 Les cafe de mon quartier (3) 第10回 第4課 J'aime le tachiyomi. (1) 第11回 J'aime le tachiyomi. (2) 第12回 J'aime le tachiyomi. (3) 第13回 第5課 La mode japonaise (1) 第14回 La mode japonaise (2) 第15回 前期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第1課 Mon quartier (1) 第2回 Mon quartier (2) 第3回 Mon quartier (3) 第4回 第2課 Ma ligne (1) 第5回 Ma ligne (2) 第6回 Ma ligne (3) 第7回 第3課 Les cafe de mon quartier (1) 第8回 Les cafe de mon quartier (2) 第9回 Les cafe de mon quartier (3) 第10回 第4課 J'aime le tachiyomi. (1) 第11回 J'aime le tachiyomi. (2) 第12回 J'aime le tachiyomi. (3) 第13回 第5課 La mode japonaise (1) 第14回 La mode japonaise (2) 第15回 前期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第5課 La mode japonaise (3) 第2回 第6課 La television japonaise (1) 第3回 La television japonaise (2) 第4回 La television japonaise (3) 第5回 第7課 La cuisine japonaise (1) 第6回 La cuisine japonaise (2) 第7回 La cuisine japonaise (3) 第8回 第8課 J'aime le Shibuya. (1) 第9回 J'aime le Shibuya. (2) 第10回 J'aime le Shibuya. (3) 第11回 第9課 Les montagnes japonaises (1) 第12回 Les montagnes japonaises (2) 第13回 Les montagnes japonaises. (3) 第14回 第10課 La ceramique japonaise (1) 第15回 後期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--

科目区分	副専攻科目						
科目名	レクチュール・フランセーズIIB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	フランス語の読解						
授業の概要	日本に住んでいるフランス人の目を通して書かれた日本観察の文章をフランスで読みながら、フランス語の読解能力を養成する。						
到達目標	フランス語検定3級程度の読解力の養成						
授業計画	第1回 第5課 La mode japonaise (3) 第2回 第6課 La television japonaise (1) 第3回 La television japonaise (2) 第4回 La television japonaise (3) 第5回 第7課 La cuisine japonaise (1) 第6回 La cuisine japonaise (2) 第7回 La cuisine japonaise (3) 第8回 第8課 J'aime le Shibuya. (1) 第9回 J'aime le Shibuya. (2) 第10回 J'aime le Shibuya. (3) 第11回 第9課 Les montagnes japonaises (1) 第12回 Les montagnes japonaises (2) 第13回 Les montagnes japonaises. (3) 第14回 第10課 La ceramique japonaise (1) 第15回 後期のまとめと 筆記試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして授業に臨むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、平常点50%。						
教科書	プリントを配布。						

参考書	
-----	--